

学会記事

第16回徳島医学会賞受賞者紹介

徳島医学会賞は、医学研究の発展と奨励を目的として、第217回徳島医学会平成10年度夏期学術集会（平成10年8月31日、阿波観光ホテル）から設けられることとなりました。年2回（夏期及び冬期）の学術集会での応募演題の中から最も優れた研究に対して各期ごとに大学関係者から1名、医師会関係者から1名に贈られます。

第16回徳島医学会賞は次の2名の方々の受賞が決定いたしました。受賞者の方々には第233回徳島医学会学術集会（夏期）授与式にて賞状並びに副賞（賞金10万円及び記念品）が授与されます。

尚、受賞論文は次号（62巻3,4号）に掲載の予定です。

（大学関係者）



氏 名：岩瀬 俊
生 年 月 日：昭和45年4月2日
出 身 大 学：高知医科大学医学部
所 属：徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部生体制御医学講座生体情報内科学

研究内容：各種体性幹細胞を用いた血管新生療法に関する基礎的および臨床的検討

受賞にあたり：

このたびは、第16回徳島医学会賞に選考していただき、先生方ならびに関係各位の皆様に厚く御礼申し上げます。

社会の高齢化ならびに食生活の欧米化に伴い、閉塞性動脈硬化症による末梢動脈閉塞症症例が増加の一途をたどっております。各種治療の発達にもかかわらず、虚血が解除できずに四肢切断を余儀なくされる場合があります。近年、成人の骨髄ならびに末梢血中に血管内皮に分化することの出来る細胞（血管内皮前駆細胞）が存在することが明らかとなりました。重症虚血を有する末梢動脈閉塞症症例に対して、血管内皮前駆細胞を含む骨髄単核球細胞を移植したところ血管新生が誘導され、難治性潰瘍が治癒したと報告されております。しかし全身麻酔下に大量の骨髄液を採取するため、侵襲性が高いなどの

問題点も存在します。

今回、私たちは循環機能制御外科学分野（心臓血管外科）と共同で、より侵襲性の低い末梢血単核球細胞移植による血管新生治療の有効性について検討いたしました。生体情報内科学では以前より、血液領域の悪性新生物に対して末梢血単核球による細胞移植治療を行っております。今回の検討では、重症虚血肢を有する末梢動脈閉塞症5症例に対して血液アフェレーシスを用いて採取した自己末梢血単核球細胞を局所に移植しました。5例中4例において自覚症状の改善を認め、特に両上肢に難治性潰瘍を有した症例においては細胞移植を2回行うことにより潰瘍は両上肢共に治癒しました。一方、特記すべき有害事象の出現は認めませんでした。血管新生の機序自体、未だに不明な点が多く、末梢血単核球細胞移植の効果発現メカニズムに関してもさらなる検討が必要です。しかしながら、今後、重症虚血肢症例に対する新たな治療の選択肢となる可能性があります。

今回の受賞を励みにして、さらに症例を重ね安全性ならびに有効性を確立したいと考えております。最後になりましたが、本研究を進めるにあたって御指導、御助言をいただきました生体情報内科学分野 松本俊夫教授、循環機能制御外科学分野 北川哲也教授、ならびに諸先生方にこの場をおかりして心より御礼申し上げます。

（医師会関係者）



氏 名：藤田 善史
生 年 月 日：昭和29年1月7日
出 身 大 学：徳島大学医学部
所 属：徳島市医師会
研 究 内 容：ミャンマー連邦における超音波白内障手術指導

受賞にあたり：

この度、第16回徳島医学会賞に選考していただき、先生方ならびに関係各位の皆様に厚く御礼申し上げます。

私は、徳島市で眼科を開業しておりますが、1999年2月から定期的にミャンマー連邦を訪れ、現地の眼科医に超音波白内障手術を指導しています。超音波白内障手術は日本では一般的な白内障術式として普及していますが、ミャンマー連邦では、経済状態が悪く超音波手術器械が手に入りにくかったこと、海外留学が制限され十分な情報を得ることができず術式に対する理解がなかったこと

などから、旧来の方法である水晶体囊外摘出術が行われていました。

超音波白内障手術は、水晶体囊外摘出術よりも安全で、手術時間も短く、術後の視力回復も早く、日帰り手術も可能です。そのため、ミャンマー連邦で白内障に罹患している人たちのために、この術式を普及させることを目的として、手術器械・器具・薬剤の寄附などとともに、超音波白内障手術ができる眼科医を養成しています。

現在までに14回、ミャンマー連邦を訪れ、ヤンゴンおよびマンダレー眼科病院を中心に実際の超音波白内障手

術を行うとともに、豚眼を使った実習、手術助手をしながらの手術指導、ミャンマー日本眼科手術学会を開催するなど、多くのミャンマー眼科医と交流を持ちながら手術の普及に努めています。

今回の受賞を励みに、さらに今後もこの活動を継続させていきたいと思います。最後に、私と一緒に医療活動が続けてくれている眼科医療チームのメンバーと徳島医学会への参加を促していただいた徳島市医師会長である川島周先生および常任理事の先生方に深く感謝いたします。